

2017年~2021年
 その他主な出来事

2017年
 ●「空手発祥の地・沖縄」の発信拠点として沖縄空手会館が開館
 ●世界ボクシング評議会(WBC)フライ級タイトルマッチで比嘉大吾選手が世界王者に

2018年
 ●渋滞緩和を目指し、浦添市西洲(いりじま)と宜野湾市宇地泊を結ぶ4.5キロの西海岸道路が開通
 ●宮古島のパーントゥが「来訪神 仮面・仮装の神々」としてユネスコ無形文化遺産に登録
 ●県知事選で玉城デニー氏が初当選

2019年
 ●沖縄都市モノレール(ゆいレール)が浦添市(てだこ浦西線)まで4駅延伸

2020年
 ●プロ野球西武の平良海馬投手が、県勢で初めて新人王に選出
 ●那覇空港の第2滑走路が運用開始。滑走路処理容量が従来の1.8倍と大幅に拡大
 ●県内におけるコロナウイルス(COVID-19)感染者の初確認

2021年
 ●琉球舞踊真流の宮城幸子氏、重流流の志田房子氏が琉球舞踊の分野で初めて人間国宝に認定
 ●奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島が世界自然遺産に登録

ここがポイント

このとき県出身・県関係選手が手にしたメダルの内訳は、金が二つ、銀が一つ、銅が三つです。もう一つの金メダルは、野球の平良海馬選手が獲得しました。

ラストツアーは75万人を動員
 県民栄誉賞の受賞も

安室奈美恵氏引退

県出身の歌手、安室奈美恵氏が9月16日に引退しました。引退前日には沖縄コンベンションセンターでライブが開かれ、最後の姿を見届けようと全国から数万人のファンが駆け付けました。



提供:沖縄タイムス社

引退記念イベントが全国で開催されるなど、「引退フィーバー」ともいえる現象が起きました。

2019年



提供:那覇市

観光業を中心に
 県経済が拡大

観光客が1千万人突破

観光業を中心とした県経済の拡大により、観光客が初めて1千万人を突破しました。大型クルーズ船の寄港増や大型連休の好調な旅行需要、下地島空港ターミナルの開港などを背景に、7年連続で入域観光客数の過去最高を更新しました。

2021年



提供:喜友名諒/Shutterstock.com

空手男子形で県出身者初の
 五輪金メダル

東京五輪・パラリンピックで
 県出身・県関係選手が活躍

五輪には県出身・県関係選手は過去最多の11名、パラリンピックは2名が出場し、合わせて計6個のメダルを獲得しました。なかでも空手男子形の喜友名諒選手が県出身者初の金メダルを獲得しました。

沖縄復帰
 50年を
 振り返る

沖縄あんやたん
 かんやたん



2017年~2021年編

2022年5月15日で沖縄が本土復帰して50年。復帰からの50年を毎年5年ごとに振り返り、主なニュースや出来事と共に紹介。その当時から知らない人は学びながら、その当時を知る人は「あんやたん、かんやたん(ああだった、こうだった)」と懐かしみながらその時代を振り返ってみましょう!

協力:沖縄県立芸術文化研究所 共同研究員 仲村顕

観光客が1千万人を突破!
 五輪に喜び、コロナで
 困難もあった5年間

2017年から2021年の5年間で起きた最も大きな出来事は、現在も続く新型コロナウイルスの感染拡大ではないでしょうか。その影響により、東京五輪・パラリンピックは史上初めて開幕が一年延期、無観客での開催となりましたが、県出身・県関係者が活躍。空手男子形の喜友名諒選手による金メダル獲得など、県民に大きな感動を与えました。

一方、観光業を中心に好調だった県経済は、新型コロナウイルスによって大打撃を受け、2018年度に1千万人を突破した観光客は2020年度には258万人まで大幅に減少。さらに首里城が火災により焼失するなど、辛い出来事が続きましたが、沖縄・奄美が世界自然遺産に登録されるなど、喜ばしいニュースもありました。

2019年



提供:沖縄タイムス社

県内外から多くの支援が寄せられ、再建へ向けての輪が広がりました

8棟が焼損、収藏品約400点が焼失
 県民に深い悲しみ

首里城が火災により焼失

10月31日未明に、那覇市の首里城で火災が発生し、正殿、南殿、北殿、書院・鎖之間(さすのま)などの主要6棟が全焼し、奉神門、女官居室の2棟が焼損、貴重な収藏品も約400点が焼失しました。沖縄のアイデンティティを象徴する首里城の火災は県民に強い衝撃を与えました。

ここがポイント

その後、県内外そして海外からも首里城復興への支援があり、昨年末までに57億円もの寄付金が県に寄せられています。

島の未来を担う、次世代の「ものづくり」

パイナップルの葉繊維入りストロー

「捨てるものがない明日」を目指し、環境に配慮した商品を開発している会社「フードリボーン」では、パイナップル収穫後、畑に大量に廃棄されていた葉を加工して、ストローを作り出しました。繊維抽出時に大量に出る残渣(残りがす)を活用しているためコストパフォーマンスが良く、さらに普通

のプラスチックとは違いコンポスト環境下で堆肥に生まれ変わる成分で作っているため、海ごみの代表ともいえるマイクロプラスチックにはならず、安心して使うことができます。漂白処理が施されていないため温かみを感じる色合いも魅力です。



【問い合わせ】
 FOOD REBORN
<https://food-reborn.com.jp/>



HP

